



2011年度  
複十字シール图案  
デザイン:安野光雅画伯

# 健康の輪



編集●全国結核予防婦人会団体連絡協議会事務局(結核予防会普及広報課内) 題字●初代会長 廣瀬勝代

## 第14回秩父宮妃記念結核予防功労賞表彰状贈呈式開催



平成23年10月18日、リーガロイヤルホテル東京(東京都新宿区)において、結核予防に大きな功績があったと認められる個人または団体の方々に、秋篠宮妃殿下より表彰状が授与されました。



お茶会にて受賞者とお言葉を交わされる秋篠宮妃殿下

第十四回秩父宮妃記念結核予防功労賞表彰状贈呈式 おことは  
平成二十三年十月十八日(火)

本日、「第十四回秩父宮妃記念結核予防功労賞」の表彰を受けられる皆さまにお祝いを申し上げます。

この賞の贈呈は、去る三月二十四日に福島県郡山市にて、「第六十二回結核予防全国大会」で行われる予定でしたが、東日本大震災によって、この大会は中止となりました。

三月の大会の準備を進めてきた結核予防会福島県支部は、地震、津波、原発事故という大変厳しい状況の中、保健師による避難所での健康支援、被曝スクリーニング検査スタッフの派遣、大学病院から派遣された医師団の移動への協力など、被災者を支援する活動をおこなってきました。

また、岩手県支部、宮城県支部では、被災者の健康支援や医療支援の活動を行い、これらの活動が結核予防会本部と他の支部に引き継がれた後も、スタッフの派遣などを続けてきました。

結核予防会が、こうした被災者支援活動を積極的に進めてきたこと、さらに、今後も現地のニーズに応じて、仮設住宅での医療や健康の支援活動を検討していることは、大変心強いこととさせていただきます。

さて、本日受賞される皆さまは、東北から九州、沖縄まで、それぞれの地域において、医師、保健師、看護師として、あるいは保健所の所長や結核審査協議会の関係者として、活躍してこられました。結核の医療・看護や予防の分野における、皆さまの永年にわたる貢献に対して、心より感謝申し上げます。

なお、国際協力功労賞受賞者の須藤昭子博士は、三十年近くにわたり、結核医療活動を献身的に続けてこられ、今も、二〇一〇年の地震で大きな被害を受けたハイチで、震災からの復興と、結核診療所やサナトリウムの再建に尽力しておられます。須藤博士には、今年の三月にハイチから一時帰国された折、表彰状を贈呈致しました。

日本では、現在も年間約二万三千人以上が新たに結核を発症し、合併症を伴う高齢者の増加、大都市への集中化、外国人患者が全体に占める割合の増加など、その実態は複雑化しております。これらの現状をふまえて、今後も結核対策を更に丁寧に進めていく必要があります。あわせて、広く人々に結核の正しい情報を伝え、結核への理解を深めることも大変重要なこととさせていただきます。

このたび受賞される皆さまをはじめ、これまで結核の予防や対策に取り組んでこられた多くの方々のご努力に対し、深く敬意を表しますと共に、皆さまの一層のご活躍を願い、贈呈式に寄せる言葉といたします。

## 第14回秩父宮妃記念結核予防事業功労賞(団体部門)を受賞して

### 福島県健康を守る婦人連盟 会長 佐藤 裕子



はじめに、昨年3月11日に発生いたしました東日本大震災におきまして、被災されましたすべての皆様に衷心よりお見舞いを申し上げます。

本県では、地震・津波の被害に加え、原発事故に伴う被害の大きさも計り知れず、今なお多くの方々が避難生活を余儀なくされておりますことは悲痛の念に堪えません。全国の皆様には、心温まるお見舞いと励ましのお言葉をいただき深くお礼申し上げます。支えてくださった多くの方々に、私たちは改めて「家族の大切さ」、「人と人の絆の重さ」、そして「美しいふるさとへの想い」を

胸に刻んだ次第です。

福島県健康を守る婦人連盟は、昭和43年に福島県婦人団体連合会、福島県農協婦人部協議会、福島県母子寡婦福祉連合会の3団体が主体となり、「福島県結核予防婦人会」として設立したことに由来しております。その後、健康全般を見据えた婦人団体の役割を目指し、昭和51年に「福島県健康を守る婦人連盟」に改称いたしました。現在は、「家族の健康は主婦の手で」というスローガンのもと結核予防のみならず、広く健康増進活動の展開に努めております。

この度、本連盟が秩父宮妃記念結核予防事業功労賞の栄誉を賜りましたことは誠に喜ばしく、これまで導いてくださいました関係団体の皆様に心より感謝申し上げます。また、地域の要となり結核予防活動に

尽力されてこられました会員の皆様に深く敬意を表し、これからもその歴史とともに未来に活動の輪を繋いでいきたいと決意を新たにしております。

本来ならば、昨年3月23日、24日の両日にわたり、福島県郡山市において「第62回結核予防全国大会」が開催される予定でしたが、震災を受け中止となりました。復興への道のは大変険しいものと感じておりますが、私たちは決して結核対策への意識を弛ませることなく、全国の皆様と手を携えながら活動に力を尽くしてまいりますので、今後とも変わらぬご支援のほどよろしく願い申し上げます。



## 会長就任ご挨拶

### 特定非営利活動法人 東京都地域婦人団体連盟 会長 谷茂岡 正子



このたび前川島会長の後を引き受けまして、会長の重責を担うことになりました。浅学非才の身でございます。皆様のご指導、ご鞭撻のほど何とぞよろしくお願い申し上げます。

さて、結核をめぐる社会状況に改めて目を向ける立場に立ち、患者、死者が多いのに驚きました。現実日本でも毎年2万3千有余の患者が発生していることを知り、複十字

シール運動をしてきましたが、一般の人はあまり結核に関心を持っていない、過去の病気と捉えているように見受けられます。高齢者と若者に多いこと、そして感染症であることを十分に意識していない人が多いようです。

私たちはこれから結核予防週間に併せて複十字シールキャンペーンを普及させ、予防をPRしていく運動にも力を入れ、一人でも多くの方の感染を防ぎたいと思います。婦人会は家庭を守り地域を育てる運動をしてきていますので、これからは明るい社会実現のためにも、世界中で結核を撲滅するため、組織の充実、普及活動を推進したいと思います。

### 島根県連合婦人会 会長 小林 洋子



昨年4月より県連婦会長の任をいただき、何分にも微力で任を果たすべき奮闘の日々の中、11月山口県で開催された中国・四国地区結核予防婦人団体幹部研修会に2名で参加いたしました。

結核と言えば過去不治の病とされ身近な親戚にも娘を亡くし悲惨な思いをされ、また、胸部手術で命をとり止めたとよく耳にしていますが、ストレプトマイシン治療で治る病気

とされたことで日常から遠ざかっていました。日本は未だ中蔓延国であり、社会情勢の変化により発展途上国から入国する若者の結核も増えているなど結核問題はまだまだ多難であり、複十字シール募金が世界の結核をなくす国際協力事業に役立てられていることを認識し、結核予防婦人団体として先人の思いを継承し、複十字シール募金活動を目に見える活動に工夫をし、前進して行きたいと思っています。



### 広島県地域女性団体連絡議会 会長 仲島 武子



この度、広島県の会長に就任いたしました。

広島県では、平成22年における新登録患者は455人で、人口10万人に対する罹患者は15.9人と、全国の18.2人に比べ低いものの結核対策の手を一旦緩めてしまうと増加する可能性があり、まだ予断を許さない状況です。また、新規登録患者における70歳以上の高齢者の占める割合は、約5割となっ

ており、抵抗力の弱まった高齢者は特に健康管理に注意する必要があります。そこで、今後、地域の実情に合わせたきめ細かな結核対策の取り組みや結核についての正しい知識の普及が求められています。

私たちは、共に築く新たな地域社会を活動目標に、住み慣れた地域で安心して自分らしく暮らす元気な地域づくりへ、また社会づくりへつなげるよう、互いに支え合い元気で、明るく、楽しく、複十字シールなどを通じて結核や肺がん等をなくすための予防活動資金運動や、胸の病気への関心を持っていただく普及啓発を続けていきたいと思っています。

## 平成23年度地区別結核予防婦人団体幹部研修会(5地区)開催

### 北海道健康をまもる地域団体連合会 会長 齋藤 芳子



平成23年7月15日～16日「第44回北海道家族の健康をまもる講習会」が大雪青少年交流の家で

開催され、73名が参加しました。残念な事に2日間とも雨天となり大自然を象徴する十勝連峰も雲の中、激しい雨足に芝生が打たれる状況です。講習会は卓球・バトミントン等屋内実技ですが、手作り講座を企画して結核予防のシンボルである複

十字をデザインしたバッジ作りを致しました。安全ピンとビーズで安価な材料を使用した(写真参照)手芸は好評でした。このバッジは知事表敬訪問の際に持参したところ保健福祉部長が関心を示されスーツの襟元にお付けになられ、私どもと写真に同席して下さいました。

講習会初日に例年参加団体全体交流会を開催致します。結核予防会、北海道対がん協会、食生活改善推進団体とそれぞれの健康づくりを推進する各市町村単体による活動報告と問題提起があり、それらの情報の生の声は共有される情報交換の場として意義深いものであり、広域



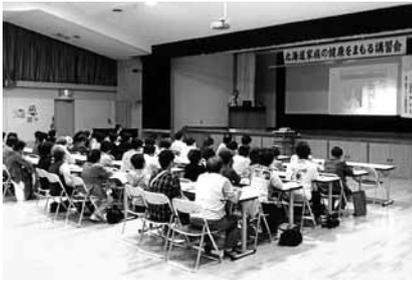
手作りの複十字マークを  
デザインしたバッジ



な北海道の地域性のゆえの問題解決へとう理想のものですが、時間設定が短く主催者として反省致しました。

また、原点に戻り「1枚の複十字シールが世界を結ぶ」DVDを鑑賞し

ました。新鮮な感動があり好評でした。2日目は講演2題、「結核予防とBCG接種」を演題に結核研究所名誉所長森亭先生によるご講演、日本の著名人が結核により若くして亡くなられた事、現在の結核感染状況、部位別結核、小児結核、BCG接種の課題等について貴重なお話を興味深く拝聴しました。第2の講演は「乳がん検診について」北大医学部



講師黒藤邦夫先生によるお話で、マンモグラフィ検診の実写の映像による講話は通常見る事が出来ない医学的映像によるお話でした。私達は、この講演会から検診と予防の啓発が健康づくりの柱となると再認識する講演会でした。

向きなご返事をいただき、温かいご理解に感謝しながら、開催を決めました。

11月10日～11日、秋田ビューホテルを会場に、平成23年度東北地区結核予防婦人団体幹部研修会は、関係者、幹部会員126名参加のもと、盛大に開催されました。

特別講演『世界につながる健康づくりの輪～最近の日本と世界の結核を中心に～』では、結核予防会結核研究所長、石川信克先生から東北各県ごとの発病者状況など、日本と世界の結核について知識を深めることができました。また、「指もみ・瞑想・おしゃれ」など健康長寿のための楽しいお話もありました。

結核予防会結核研究所名誉所長、森亨先生の講話『結核予防ワクチン

BCGについて』では、生後6カ月までのツベルクリン反応検査を省略した、BCG直接接種導入の意味を理解することができました。お二人の先生からお話をいただく幸せな機会に、感謝いたしました。

シンポジウムは『健康な生活と婦人団体の役割～歴史をふまえて更なる活動の充実をめざそう!～』をテーマに東北6県からの代表をシンポジストとして、活動事例発表を行いました。コーディネーターの山下武子理事・事務局長から、特色ある活動を引き出していただき、課題の解決につながり有意義でした。また、石川先生、森先生からご助言をいただき、健康づくり活動の充実一同努めることへの思いを強くしました。

記念講演では『動物のいのち見つけて』と題し、秋田市大森山動物園の小松守園長からお話をいただきました。命について動物の親子の物語から、繋がり、絆のあり様、教育哲学にも広げ、一同の感動を呼びました。

懇親会では、心をこめたアトラクションで『がんばろう東北!』と参加者全員が絆を確かめ、繋ぎ合った研修会でした。

**結核予防婦人会秋田県連合会  
会長 小玉 喜久子**



3月11日に起きた東日本大震災により、東北地区幹部研修会を予定通り開催していいものかどうか、中止も考えましたが、被災県からの前





「健康の歌」 斉唱

**山梨県愛育連合会  
会長 鈴木 孝子**



一昨年新潟県の「婦人団体幹部研修会」に参加させて頂きました。結核予防についての学習は基より、新潟県会員の皆様方から温かい

歓迎を受け、次回、山梨県にお出で頂くためPRをした事が思い出されました。

山梨の戦国武将「武田信玄」「富士山」「ぶどうとワイン」「温泉郷」とPRをさせて頂きました。このこ

とは、来年、山梨県で国民文化祭「富士の国やまなし国文祭」が開催されますので、どうぞ山梨県にお越し下さいます様に。とその思いを含め書かせていただきました。

さて、本題に入りますが、昨年10月、甲府市において「婦人団体幹部研修会」を開催いたしました。皆様をお迎えするには、大変良い時期となり、会場いっぱい参加者の中、盛会に研修会ができました。

しかし、3月の東日本大震災、その後の自然災害発生等で、亡くなられた方、被災された方々への心からのお見舞いも忘れられませんでした。

東北地方では、健診受診者が減

少し、放射線を使う健診を避ける働き等があることを聞きました。

また現在、我が国の結核の状況から「中蔓延国」として世界的に位置づけられていることを聞き、当日は、結核予防会事業部顧問の山下武子様から「複十字シール運動のあゆみと活動」、結核予防会結核研究所名誉所長の森亨先生から「結核予防とBCGワクチン接種について」講演を頂きました。

特別講演で「女性のライフサイクルと健康」と題し、山梨大学の鈴木孝太先生から講演を頂きました。それぞれに学習ができ、有意義な一日研修ができました。

その後、参加された皆様は、この学習成果を地域活動のいろいろな場面に、多面的に有効活用されている様子を聞き、研修の成果が上げられたと自負しております。

**第15回中国・四国地区結核予防婦人団体幹部研修会を引き受けて**

**山口県結核予防婦人会  
会長 林 登季子**



歴史が深く紅葉の美しい山口市のホテルニュータナカで、11月7日～8日の2日間、約90人の参加を得

て開催しました。

お忙しい中、東京の公益財団法人結核予防会から、顧問島尾忠男様、結核研究所名誉所長森亨様、事業部顧問山下武子様、山口県からは医療法人社団たはらクリニック院長田原卓浩様、独立行政法人国立病院機構関門医療センター総合診療部長佐藤穰様にご出席の上、講義をしていただき、県教育庁社会教育・文化財課社会教育主事林康弘様にはワークショップをご指導いただきま



結核予防会 山下事業部顧問講演



受講風景



愛育連合会 会長挨拶



受講風景



グループディスカッション

した。

参加者は孫育て中の年代ですが、日本はいまだに結核中蔓延国で、結核予防ワクチンBCGの接種が大切であること。以前はワクチンがなかったため有名人が結核で亡くなった例をあげられました。ワクチンがあるにもかかわらず無知で受けていない現状も学びました。感染症のために接種率が悪いと有効性が少ない。また地球規模の課題であり、アジアやアフリカに多く発生していること。日本は発展途上国の支援をしており、これも複十字シール募金が大変役に立っていること。今は青年の病から高齢者の病になっている。結核の三本柱は『健康診断』『予防接種』『適正医療の普及』であると

説かれました。

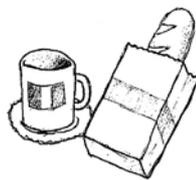
1日目最後の10グループに分かれてのグループディスカッションは、急速に打ち解けて盛り上がり、意見が活発に出て時間が足りない程でした。

2日目最後のプログラム楽健講座では、今は健康ブームであるが、体のみならず心の健康を重視しないといけない。メタボリックシンドロームは血管障害や生活習慣病につながり怖いので気をつけよう。人生楽しく健康で過ごしましょうと笑いの渦につつまれながらの講座でした。

2日間の研修で結核の現状を学び、マンネリ化していた活動を見直すきっかけとなり、幹部相互の絆が深まりました。



グループディスカッションの成果



講演

「私達は結核予防活動のアンカー」

鹿児島県結核成人病予防婦人会  
会長 伊佐 幸子



第43回九州地区結核予防婦人団体幹部講習会は昨年11月10日～11日鹿児島県市町村自治会館に

おいて開催されました。

鹿児島県から予防婦人会員157名、県民保健センターの職員10名、九州各県からの会員、関係者37名、計204名の皆様が参加いたしました。1日目は実行委員の鹿児島県保健福祉部西中須浩一部長の挨拶に始まりました。最初の講演は、鹿児島大学大学院医歯学総合研究科呼吸器内科助教授寒川卓哉先生の「たばこ肺について」。たばこ肺（COPD）とは、長年たばこを吸い続けた結果、咳や痰が続く、すぐに息切れするなど肺気腫や慢性気管支炎を引き起こすことを言うのだそうです。

2つ目の講演は結核予防会結核研究所対策支援部長小林典子様の「結核?!でも心配しないで」。1、結核とはどのような病気か。2、高齢者の結核。3、患者が発生した時の対応。4、DOTSについて。以上の内





容でお話し下さいました。講演の中で、私達はアンカーであると励まされました。中蔓延国を結核ゼロの国にする、最後のランナーとして頑張ってください。というのです。私達、結核予防婦人団体の会員は、誇りを持ってこのアンカーの役目を果たそ

うではありませんか。

2日目のテーマは、「地域における結核予防婦人会の活動」。長崎県の前田アサミさん、沖縄県の島尻清子さん、鹿児島県の川畑エイ子さんがそれぞれの地域で行っている結核予防の普及活動、複十字シール運動の

拡大など、工夫をこらした精力的な運動について発表されました。座長の結核予防会鹿児島県支部副支部長の西俣寿人先生は医師の立場で、小林先生、私がそれぞれの立場で助言いたしました。なごやかな中にも大変有意義な講習会でした。

## 複十字シールキャンペーン活動

### 結核予防婦人会長野県連合会 会長 米窪 千加代



長野県の婦人たちは、結核について格別の思いがあります。終戦後、昭和25年に、県内の小学校で結核の集団感染事件が発生したのがきっかけとなり、全国に先がけて予防婦人会の組織ができました。そして昭和32年には、結核予防婦人会長野県連合会が発足して活動が活発になりました。その後、全国組織も結成され、ブロック会議も県を持ち回りで研修会をする中で、結核撲滅への取り組みとシール募金活動を進めて参りました。

平成23年3月11日の大震災の日に、全地婦連から消費者庁に行かれた加藤さゆりさんが、長野県の副知事に就任されました。無論、県民の健康問題も結核の問題も大変関心を持たれていられますので、8月8日には予防婦人会の役員で表敬訪問いたしました。結核予防婦人会の活動は、まだまだ大切な活動であり役割があるから頑張るように励まされました。また、9月13日に行われました「信州婦人健康のつどい」には、県と共催の事業ですので、知事の代行として加藤副知事が出席されご挨拶くださいました。午前中は式典と講習会など研修をして、午後は体を動かしながら全員参加のスポーツ大会をしつつ家族の健康を考える1日になりました。

毎年、結核予防週間を中心に、県下各地でシール募金運動をしています。都市の駅前周辺での募金活動は、結核のみではなく、エイズや肺癌も含めてキャンペーンをしています。





わいっぴいプードルや花などに変身する様子に目を輝かせ、大きな人垣ができていました。

これより先、8月11日には県への表敬訪問を実施、福十字シール募金に協力をお願いしてきました。

平成22年には、2万3千人以上の結核新患者が発生しており、結核は決して過去の病気ではないこと、高齢者のみならず若年層にも増えていることを思うと、若い人たちにもっともっと関心をもってもらうよう、啓発活動にも工夫をしていかねばならないと思います。全国一斉キャンペーンに加え、日ごろの婦人会の事業・活動や毎年参加のいきいき長寿の祭典等、さまざまな機会をとらえ、その啓発に努めていきたいと思っています。

また、県下各地で行われます文化祭や、健康まつりそして生活展でもPRしています。

シール募金は、世界中の人たちとの交流がある時代だからこそ大切なのです。これからも一層、多くの人たちに呼びかけてゆくことが大切だと思います。今までも「長い咳にはご用心」と言ってきました。結核も喫煙も咳は同じです。先ずチェックをする、家庭の中での禁煙は、必須と思います。今もって結核は絶滅の難しい感染症であることを、肝に銘じて私たちはこれからも頑張っ参りましょう。

べんを行いました。結核予防会富山県支部職員、富山県結核予防婦人会役員・会員など、二十名程が参加、三班に分かれ、啓発パンフレットを配布しながら、募金のお願いと結核の怖さや予防の大切さを呼びかけました。

ちょうどお彼岸の日でもあり、通りには、お墓参りの方々や買い物客が行き交っておりました。足早に通り過ぎる人もある反面、足を止めて熱心に耳を傾けて下さる方、温かい言葉をかけて下さる方もありました。

小さな子どもたちには、大道芸人の方によるバルーンアートが大好評。赤、青、黄、緑などのカラフルな細長い風船が、みるみるうちにか

わが婦人会の活動について

愛媛県結核予防連合婦人会  
会長 川本 登倭子



私たちの団体が結核予防婦人会の活動をして、30年余りになりますが、会員数は、年々減少していき中でも実働

を重視し、愛媛県連に繋がっている18地域において、それぞれで、啓発活動、募金活動を行っています。

毎年、全国一斉の複十字シール

結核のない明日をつくるために  
—平成二十三年度結核予防街頭  
キャンペーン—

富山県結核予防婦人会  
会長 岩田 繁子



平成23年9月23日、富山市中心部の総曲輪通りにおいて、今年も恒例の複十字シール運動街頭キャン





運動にあわせて、知事表敬訪問からはじまります。

結核は、過去の病気ではなく、現在も高齢者・若年者を中心に感染が広がっています。

毎年全国大会や中央研修などに参加してもらいます。講習会を終え、日本は、「中蔓延国」であり、国内最大級の感染症である現実に驚き、啓発の重要性を痛感しており、総会などで機会あるごとに発表してもらっています。

啓発の一環として、会員の中だけではなく、地域住民にも周知してもらうために街頭に立っての募金活動をしております。道行く人たちが立ち止まって話を聞いてくださり、参加して下さるようになったことは、それだけ関心をもってくれたことだと嬉しく思っています。ストレスを貯めないことが結核にかからないと聞いているので、自分たちの健康を第一と考えながら、これからも地域に根ざした運動のひとつとして頑張っていきたいと思っています。

宮崎県健康増進婦人の会  
会長 谷口 由美繪



大震災と大津波で多くの尊い命を奪われ、放射能汚染により平和な生活が破壊された平成23年でした。

大きな犠牲と深い悲しみの年であり家族の命、自分の命に真剣に向き合った年でもありました。今年こそ政治も経済も希望が見える年となることを心から願うばかりです。

毎年恒例のがん征圧月間の街頭キャンペーンを宮崎市（県央）日南市（県南）延岡市（県北）の3カ所で、県健康増進課、市保健予防課、宮崎県健康増進婦人の会、子宮がん克服の「ひめやしの会」、「Newピンクリボンの会」が集合し街頭キャンペーンを行いました。結核予防週間の周知と健診の重要性を訴えなが



ら、県庁前から繁華街までのパレードです。ピンクリボンのTシャツに揃いの帽子をかぶり横断幕を持って声高らかに早期健診を叫ぶ66人の大行進です。

今年は着ぐるみキャラクターの参加も加わりアピール度100%のパレードでした。

商店街の人や通行人、沿道の人達に啓発グッズを配布しながら、早期発見と初期手当の大切さを伝えました。

車やバスの乗客には手を振りながらの大行進です。デパート前交差点では通行人1人ひとりに呼びかけての啓発活動で、次世代へのメッセージも伝えました。

「自分の命は自分で守りましょう」それは「早期健診、初期手当です」とこれからも一層訴え伝えていきたいと誓った活動でした。



# 複十字シールが シールコンテストで2年連続優勝

第42回国際結核肺疾患予防連合 (IUATLD) 肺の健康世界会議 (フランスのリールにて開催) のクリスマスシール・コンテストにおいて、韓国や台湾など7カ国が参加し投票の結果、2年連続

優勝いたしました。安野光雅先生のデザインは、外国の女性に特に人気があり、3回目の栄冠に輝きました。



表彰状

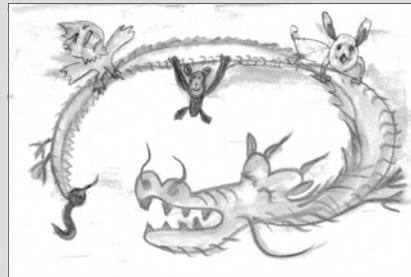


♪ 2011年 複十字シール♪

## ステキな年賀状が届きました



秋田県 小野崎 晶さん



茨城県 金津 春杏 (10才) さん



茨城県 菅原 凜太郎 (11才) さん

◆ 各ページのイラスト・カットは、荒川区保健所にお勤めの丸山裕美さんと娘さんからの作品です。

### お知らせ

3月1日をもって、全国結核予防婦人団体連絡協議会は公益社団法人として新たにスタートすることになりました。次回号で、ご挨拶させていただきます。

## イラスト・カット募集

平成24年7月号 (健康の輪No.105) に掲載するイラスト・カットを募集致します。

花・動物・その他、何でも結構です。

締切は、平成24年5月10日 (当会必着) です。

全国結核予防婦人団体連絡協議会事務局宛

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-3-12

TEL : 03-3292-9288

